

講義コード	1530820000
講義名称	文化人類学A　＜秋＞
科目英文名	Cultural Anthropology A
開講責任部署	国際教養学部　英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	ANTH3410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
小池　誠

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート 小レポート/小テスト
---------------	---

講義・演習概要	文化人類学は自分たちとは異なる文化を調査（フィールドワーク）、研究し、この世界に住むさまざまな人々の多様性を明らかにしてきました。この講義では家族と結婚を中心テーマに取り上げます。とくに過去と現在における日本の家族と結婚、そして日本とはまったく異なるインドネシア東部のスンバ島の親族と結婚を取り上げ、具体的な事例をとおして文化人類学の考え方を講義します。この講義は異文化理解を深め、「多文化共生をめざす国際理解の促進」につながることを目的としています。文化の多様性だけでなく、人類としての普遍性も見ていきたいと思います。私たちの常識とまったく違う習慣や社会のあり方を「遅れたもの」と見下すのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす文化相対主義の視点を身につけてください。
学習（到達）目標	①　文化人類学の基本的な用語と概念をきちんと理解し、正しい知識をもつ。 ②　文化人類学の考え方を理解し、それにもとづいて授業で取り上げた事例について自分の考えを述べることができる。 ③　講義で学んだことを正確にまとめ、それについて自分の意見を述べることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	授業ガイダンス：文化人類学の家族・結婚研究
第2回	インドネシア東部・スンバ島でのフィールドワーク
第3回	スンバの父系制：祖先との系譜のたどり方
第4回	母系社会：インドネシア・ミナンカバウ
第5回	日本の家族史：イエと家族
第6回	現代日本のゆらぐ家族
第7回	現代の生殖医療技術と親子関係
第8回	結婚の多様性：誰が誰と結婚するか
第9回	一般交換と母方交叉イトコ婚
第10回	スンバの母方交叉イトコ婚
第11回	スンバの結婚と交換
第12回	LGBTQ+ と分類：性自認と性的指向
第13回	新しい結婚のかたち：アメリカと台湾の同性婚
第14回	同性カップルと子ども
第15回	講義のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	36%
レポート	25%
その他	39%

成績評価の方法（コメント）	試験は授業内容に関する小テスト（3点）を計12回実施する（計36点） レポートは中間レポート（10点）および最終レポート（15点）の計2回実施する（計25点）。 その他は3回の小レポート（3点）と毎回の授業中に書くコメントシート（2点）によって授業への積極的な参加度を評価する（計39点） 出席自体は評価の対象にならないので、かならず授業中にコメントシートを書いてください。
---------------	--

参考文献	小池誠、2005、『東インドネシアの家社会―スンバの親族と儀礼』晃洋書房 平井晶子ほか編著、2017、『シリーズ家族研究の最前線② 出会いと結婚』日本経済評論社 山下晋司・船曳建夫編、1997、『文化人類学キーワード』有斐閣 このほか、講義のテーマに応じて授業中に参考図書を紹介する。
事前および事後学習の指示	次回の授業までに読んでおくべき授業資料を配布しますので、よく読んでから授業に出てください（事前学習）。また、授業後、かならず資料を読み直して事後学習してください。なお、授業で取り上げたテーマに関連する資料などを積極的に読むようにしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	異文化・家族・親族・結婚
備考(管理者用)	（旧：文化人類学）02～17SS・L生読替

講義コード	1531230000
講義名称	教育社会学B　＜秋＞
科目英文名	Sociology of Education B
開講責任部署	社会学部　社会学科
代表ナンバリングコード	OSOC2490
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
山内　乾史

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	本授業は、教育の世界で起きる諸問題を社会的視点から捉えていく方法について検討することを目的とします。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に教育の世界だけを見つめるのではなく、巨視的な分析方法が必要とされます。本授業では、欧米との比較（特にアメリカ合衆国とイギリス）を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起きる諸問題を解説していきます。
学習（到達）目標	教育を社会的にとらえるとはどういうことなのかというものの考え方を習得することを本講義は目標とします。そのために、さまざまな諸外国の教育を取り上げ、比較することによって、日本社会の普遍性と特殊性について考えることを講義の中心にしています。講義は多人数になることが予想されますし、海外の教育について語る機会が多いため、映像による資料提示が多くなると思います。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション 生徒指導の社会学（その1）―概論―
第2回	生徒指導の社会学（その2）―校則とは何か―
第3回	生徒指導の社会学（その3）―いじめ問題への対処について―
第4回	生徒指導の社会学（その4）―不登校への対処について―
第5回	エリート教育の国際比較―パブリックスクールとオックスフォード・ケンブリッジ― 指定テキスト第Ⅳ部
第6回	イギリスにおける公立学校の諸問題と日本への示唆 指定テキスト第Ⅳ部
第7回	大学におけるアクティブラーニングをめぐって 指定テキスト第Ⅱ部
第8回	日本の特別活動の特徴をめぐって
第9回	教師の多忙化をめぐって―政策的課題を中心に―
第10回	大学生と人権（その1）―各種ハラスメントへの対応―
第11回	大学生と人権（その2）―SNSの利用法と注意―
第12回	大学時代に何を学ぶべきか―大学生生活の過ごし方（その1）：目標・計画の立て方を中心に― 指定テキスト第Ⅲ部
第13回	大学時代に何を学ぶべきか―大学生生活の過ごし方（その2）：コミュニケーション能力の習得を中心に― 指定テキスト第Ⅲ部

第14回	若者の就労をめぐる一フリーター論を中心にー 指定テキスト第Ⅲ部
第15回	まとめと「『到達度・理解度』の確認」

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	70%
レポート	0%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	試験については、第15回授業時に行う「『到達度・理解度』の確認」をもって代えます。「『到達度・理解度』の確認」は指定テキストのみ持ち込み可（書き込み可）にする予定です。必ず用意してください。「その他」は授業終了時に課すコメントシートの提出回数と内容に応じて評価します。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	山内乾史	「大学教育と社会」ノートー高等教育論への誘いー	大学オンライン販売	9784762030154	学文社	必ず用意すること

参考文献	原清治・山内乾史編(2019)『教育社会学（新しい教職教育講座 教職教育編③）』ミネルヴァ書房 山内乾史・武寛子(2024)『「学校教育と社会」ノートー教育社会学への誘いー（第四版）』学文社
事前および事後学習の指示	事前学習：指定テキストの該当する章を熟読すること。 事後学習：各自テキストと参考書を使ってしっかり復習しておくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	学校 大学 教育 社会
備考(管理者用)	（旧：教育社会学）02～19生読替

講義コード	1540030000
講義名称	労働社会学　＜秋＞
科目英文名	Labor Sociology
開講責任部署	社会学部　社会学科
代表ナンバリングコード	0SOC3460
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
萩原　久美子

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業① 報道経験に基づいた現場と政策過程の実態を踏まえて講義する
------	----	------------	---

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	本講義は大きく三つのパートに分けて「労働」を論じる。 第一に、「労働」とは一体、どんな活動や行為を指すのだろうか。「労働」概念の変化を歴史的に俯瞰し、「労働」の現在に迫っていこう。ITを基盤とするプラットフォームビジネスはギグワーカーと呼ばれる労働者を生み出し、雇用労働という概念を揺るがせている。この点を考察していこう。また、性別、人種、国籍、性的志向、年齢によって有償労働とケアの割り当ては異なり、だれが行うかによっても「労働」の社会的意味や評価も異なってくる。この社会はだれにどのような「労働」を割り当てているのか。それがもたらす様々な問題を考えていこう。 第二に、サービス経済化は社会に新たな分断と階層化をもたらしている。サービスの特性を理解しつつ、その労働過程の特徴を考察していこう。特に、対人・接客サービスでは資本は労働者に「心」の管理統制を要求する。私的な領域に浸透する管理のまなざしは何をもたらそうとするのだろうか。 第三に、そして、日本社会における仕事と家族とのインターフェイスをひも解きながら、ジェンダーと労働、ケアの関係性を考えていきたい。なぜ労働がリスクになるのか、家族がリスクになるのか。よりよい社会への構想を皆さんと検討していきたい。
学習（到達）目標	①労働に関する基礎的な概念と理論を理解すること。 ②雇用労働の変化と日本における労働――特に仕事と家族とのインターフェイスをめぐる今日的課題を説明できるようになること。 ③労働を通じた社会的正義の実現について考察できるようになること。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	労働とは何か① 日本人は働き者か――日本社会の労働観と歴史的変遷
第3回	労働とは何か② 西洋社会における「労働」の系譜
第4回	労働とは何か③ 労働観をめぐる古典理論と現代への示唆
第5回	労働とは何か④ ポスト工業社会の労働と雇用労働の動揺
第6回	労働とは何か⑤ 労働概念の再定義　家事労働の発見、ケア労働の今
第7回	中間まとめと考察
第8回	サービス経済化と労働世界の変容① 産業構造、就業構造の変化
第9回	サービス経済化と労働世界の変容② サービス経済の特性と労働過程

第10回	サービス経済化と労働世界の変容③ 感情労働――私的領域に浸透する労働と統制
第11回	仕事と家族のインターフェイス① 雇用のリスク、家族というリスク
第12回	仕事と家族のインターフェイス② ケアと雇用労働の関係調整
第13回	仕事と家族のインターフェイス③ 日本型福祉社会の労働編成と再編の行方
第14回	仕事と家族のインターフェイス④ 考察 現代日本の仕事と家族のインターフェイス―その史的検討
第15回	解説とまとめ 現代日本の仕事と家族のインターフェイス―制度的側面から

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	レポート（中間、期末課題） その他（ミニレポート、コメントペーパーなど課題提出とその内容、受講の積極性） 以上を総合的に勘案して評価する。 なお、公欠を除き、欠席が講義回数の三分の一を超える場合は不合格となる。
---------------	---

参考文献	上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房 佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学』有斐閣ブックス 中西啓喜、萩原久美子、村上あかね編著『大学生から見るライフコース』ミネルヴァ書房 その他授業内でテーマに関連した文献や資料を配付、紹介する。
事前および事後学習の指示	配付した資料と参考文献で予習、復習すること。各テーマにつき学習内容に関する課題レポートを課す。配布資料、レジュメ、参考書を利用してキーワードや講義内容の整理を行い、講義での議論およびレポートの準備を行うこと。ガイダンスで示す講義スケジュールと課題に関する連絡事項を確認し、予習・復習、レポート課題提出等のスケジュール管理をしっかりと行ってください。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	雇用労働の変化　サービス経済化　ケア　仕事と家族　ジェンダー　日本型福祉社会
備考(管理者用)	（旧：産業社会学）02～20SS・02～10E・11～20E・02～20SW・B・J・08～20L生読替

講義コード	1677930000
講義名称	ドイツの文化B　＜秋＞
科目英文名	Studies on German Culture B
開講責任部署	経営学部　経営学科
代表ナンバリングコード	CULT2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
高田　里恵子

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	「戦争の世紀」、あるいは「大衆の世紀」としての20世紀前半の状況を、ドイツの歴史を見ながら考察していきます。まず、第1部「第一次世界大戦と世代対立」では、ヨーロッパを衰退させた第一次世界大戦について、敗戦国となったドイツを中心にして考察します。 次に、第2部「ナチ党と世代対立」では、1930年前後に台頭し、大衆の、とりわけ若い世代の支持を得たナチ党を取りあげます。その特徴を掴むにあたってナチ党の教育政策に注目します。
学習（到達）目標	文学作品や映像作品など具体的な事例に触れながら近代ドイツに特徴的な歴史状況を見ていくことによって、考察力と分析力を身につけることを目標とします。 この講義では、授業の内容を自分でうまくノートにまとめる練習、人の話の要点を的確につかむ訓練をしていただきたいと思います。M-Portに、講義の前には「予習用スライド」を、講義後には「授業スライド」をアップロードします。詳細は学期の開始時に授業資料としてアップロードする「パワーポイント・スライド配布について」をよく読んでください。 また、小テストやコメントシートなどを通して、わかりやすく簡潔な文章を書く練習をします。 この講義の目標は、何かを暗記することや歴史事項を確認することではありません。さらなる勉学や就職活動のために、聞く力・書く力・話す力を身につけることが目標となります。

講義・演習計画

回	内容
第1回	講義の進め方や内容、試験、成績評価について説明する。 この講義では、何が問題となり、どの時代を扱うかを提示する。
第2回	第1部　「第一次世界大戦と世代対立」 第一次世界大戦とは何であったか？
第3回	第一次世界大戦の「新しさ」について
第4回	第一次世界大戦がつくりだした世代、あるいは世代対立
第5回	第一次世界大戦と反戦思想
第6回	第一次世界大戦と戦友感情
第7回	第2部　「ナチ党と世代対立」 ナチ党とは何か、その性質を探る
第8回	若い戦死者の慰霊について
第9回	日本における『ドイツ戦歿学生の手紙』の受容
第10回	ワイマル文化について ナチ党はなぜ、ワイマル文化を批判したのか？
第11回	ナチズムの思想について 過去の思想との連続性を中心に考える
第12回	ナチ党の新しい学校① ギムナジウム教育批判

第13回	ナチ党の新しい学校② 自然讃歌と教育について
第14回	ナチ党の新しい学校③ ファシズムの嵐の中でどう生きるか？ 社会の縮図としての学校
第15回	全体のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	20%
レポート	25%
その他	55%

成績評価の方法（コメント）	「試験」は、対面の小テスト(1回10点)を2回行ないます。問題はその日の講義の内容に基づいてます。記述式で一問のみ。200字以上300字以内の解答となります。 「レポート」は、期末レポートとして最後の授業の終了後に課題を出します。ウェブ提出することになります。だいたい800字から1200字程度のレポートにする予定です。 「その他」については、ほぼ毎回提出していただくコメントシートや（小テスト実施日にはコメントシート提出はありません）、挙手での発言などを総合的に判断します。コメントシートに書いてもらう内容は、講義の最後に出す課題の解答です。コメントシートに感想や授業のまとめを書いていただくことはありませんので、ご注意ください。この言わば平常点が評価の中心となります。つまり、成績評価において重要なのはコメントシートの提出です。 詳細は学期の開始時に授業資料としてM-Portにアップロードする「コメントシート、レポート、テストの採点基準について、及びコピペに対する処置について」をよく読んでください。
---------------	---

参考文献	坂井栄八郎『ドイツ史10講』（岩波新書） 石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社現代新書） 小野寺拓也・田野大輔『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか？』（岩波ブックレット 1080） ウォルター・ラカー『ドイツ青年運動――ワンダー・フォーゲルからナチズムへ』（人文書院）
事前および事後学習の指示	予習として、授業で扱う作品や参考文献のうち、文庫などで入手しやすいものを自分で読んでみることをすすめます。直接には試験にはつながらなくとも、学生時代にさまざまな読書に挑戦ことは重要です。 また復習として、授業後にノートの内容を整理し、不明な部分は自分で調べたり、教員に質問したりして補っておくことをすすめます。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	ドイツ近現代史 第一次世界大戦 第二次世界大戦 ナチズムの思想
備考(管理者用)	(旧：ドイツ文化論) 02～17B・02～17L生読替

＜社会人の方へ＞①一年生から履修できる科目のため、基本的な学習スキルについての話もあります。
 ②毎回、授業の最後に課題を出し、それに回答するというかたちの小テストがあります。

講義コード	1E60050002
講義名称	健康・スポーツ科学講義-健康教育論 02<秋>
科目英文名	Lecture for Health and Sports Science-Health Education
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	HSPT1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
大西 史晃

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	健康に関わる要素は多様であり、それらが日常の中でどのように変化するのか、あるいはどうすれば変化させることができるのかを知ることは人生の様々な時点で豊かなライフスタイルを獲得する上で重要です。本講義では、健康教育の要素と構造についての基礎知識を学びます。 本講義における前半部は、「健康」そのものについての定義やその要素に関する評価法について説明します。後半部では、前半部で学んだ「健康の要素」を整える、あるいは獲得する過程でみられる人の行動変容について提唱されてきた行動科学モデルについて説明するとともに、健康教育の実際の例を概説します。
学習（到達）目標	本講義では、「健康」とはどのような状態かを知り、その関連要素を満たすために必要な知識を修得するとともに人が健康行動を実施する過程を認識することを通して、人々が社会の中で健康行動を実施・継続するために必要なことを理解することを目指します。 講義内では「健康とはどのような状態かについて3つの観点から説明できる」、「健康教育の発展について提唱された理論やモデルについて説明できる」、「日常の身体活動量を評価できる」を具体的な到達目標とします。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス（授業の概要・成績評価・課題の説明含む）
第2回	「健康」の定義
第3回	精神的健康に関わる要素
第4回	肉体的健康に関わる要素
第5回	社会的健康に関わる要素
第6回	精神的健康とストレスの評価法
第7回	Quality Of Life(QOL)と身体活動量の評価法
第8回	「健康教育」とはなにか？
第9回	行動科学のモデル①KAPモデル/ヘルスピリーフモデル
第10回	行動科学のモデル②トランスセオレティカルモデル/Health Action Process Approach
第11回	行動科学のモデル③社会的認知理論
第12回	行動科学のモデル④Precede-Proceedモデル
第13回	「ヘルスプロモーション」の3つの前提条件と5つのアクション
第14回	我が国のヘルスプロモーションの実際
第15回	諸外国のヘルスプロモーションの実際

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	①小テスト10回-100%（各10%）
---------------	---------------------

参考文献	「実践　ヘルスプロモーション」ローレンス W. グリーン&マーシャル W. クロイター、医学書院
事前および事後学習の指示	健康に関する書物や映像で事前に学習し、理解しておくようにしてください。これにより、講義を通して健康問題やそれに関する個人や社会の動きへの理解をより深めることができます。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	健康、健康教育、ヘルスプロモーション
備考(管理者用)	（旧：健康・スポーツ学講義〔2〕－健康教育論）02～19生読替